

伊吹山の山頂を目指せ！ ～ユニットの歩行訓練～

社会福祉法人薫風会
特別養護老人ホーム第二大和の里
いつやるの!?今でしょ♥

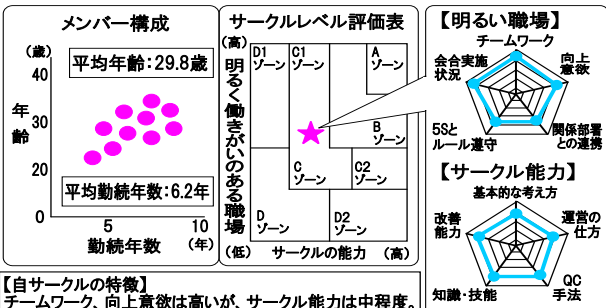


(サークルからの感想)
問題を放置・先送りせず、問題に向き合う組織風土作りを目指すサークル活動で、歩行訓練に重点を置いたアクティビティプログラムを楽しんで増やすことができました。

- 所在地 愛知県稲沢市
- 構成人員 10名
- メンバー職種 介護職員、看護職員、機能訓練指導員
施設ケアマネジャー、生活相談員
- 施設のQC活動年数 6年7カ月
- メンバーの平均年齢 平均29.8歳
- 本テーマの活動期間 6カ月
- 本テーマの会合回数 30回
- 会合時間 1回平均50分
- 主な活動時間 業務時間内外

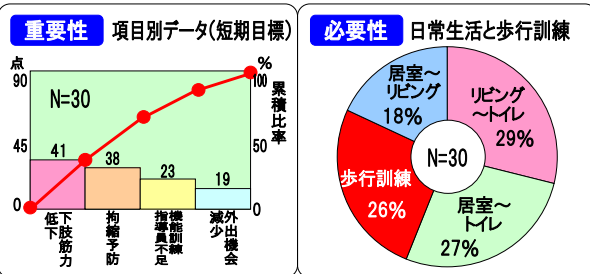
1. 職場紹介

当施設は、**S**mile**H**eart**A**ctをモットーとした総合福祉施設です。サークルメンバーは、ユニットリーダーを中心として機能訓練指導員、ケアマネジャー、看護師、介護士、相談員で構成され、サポートメンバーとして、嘱託医師にも参加して頂いています。



2. テーマの選定

問題・課題選定シートと問題・課題絞込みシートを使い、施設長方針をもとに幅広く洗い出した問題・課題の中から優先度の最も高いものを選択し、テーマを決めました。



◎=5点(8/10人以上)
○=3点(7/10~4/10人)
△=1点(3/10人以下)

【評価基準】

評価項目	重要性		効果		全員参加	緊急性	総合評価
	部署方針	お客様要望	困り具合	将来の見込み			
仮テーマ							
歩行距離を伸ばそう～下肢筋力低下を防ぐ～	◎	◎	◎	◎	◎	◎	36
利用者との絆を深めよう～認知症の生活を重視～	○	◎	○	◎	△	◎	26
水分摂取量を増やそう～傾眠傾向を脱却する～	◎	○	◎	◎	△	○	28
余暇時間を充実させよう～日中外出を生活の中に～	○	△	○	△	△	○	18
内出血をゼロにしよう～ヒヤリハットからの脱却～	◎	○	○	○	○	○	26
他フロアとの壁を無くそう～音ながらの近所付き合い～	◎	○	△	△	△	○	20

ポイント ① テーマの選定

テーマ選定の理由、背景は明確で、何故このテーマに取り組むのか説得力があります。職場紹介にあるように、サークルのレベル評価を行い、活動終了後に無形効果として評価し、成長度が明確になっています。

3. 活動計画

「ステップリーダー＋スライド制」を取り入れて、QCサークルメンバーそれぞれがレベルアップを図るよう、全員が目標を掲げて取り組むことにしました。

活動ステップ	ステップリーダー	サブリーダー	計画/実績	ステップリーダー＋ステップスライドを採用														
				5月			6月			7月			8月			9月		
				B	M	E	B	M	E	B	M	E	B	M	E	B	M	E
1 テーマ選定	脇本 吉川	高橋 中島	計画															
2 活動計画	高橋 中島	小嶋 日高	実績			5/20済												
3 現状把握・目標設定	小嶋 日高	徳永 北潟	計画															
4 要因解析	徳永 北潟 加藤 佐藤	加藤 佐藤 脇本 吉川	計画 実績															
5 対策案の検討実施	脇本 吉川	高橋 中島	計画															
6 効果確認	高橋 中島	小嶋 日高	実績															
7 標準化・管理の定着	小嶋 日高	徳永 北潟	計画 実績															

ステップリーダー

2チーム制

〈会合回数〉
 ・テーマの選定：3回
 ・現状把握・目標設定：6回
 ・活動計画：2回
 ・要因解析：2回
 ・対策案の検討実施：7回
 ・効果確認：3回
 ・標準化・管理の定着：3回

サークル活動方針：明るく、楽しく最後まであきらめない！

ポイント ② 活動計画

役割分担の工夫やスケジュールを明確にして取り組んでいます。活動計画がいかに重要かを学べます。中間発表など見習いたいものです。

4. 現状把握

① ユニットごとの歩行状況

歩行可能な入居者は、歩行訓練が出来ているのに車イスの入居者はあまり歩行訓練をしていませんでした。

② ケアプランとモニタリングの歩行状況

ケアプランの短期目標に歩行目標値が挙げられていますが、実際の移動手段は車イスが多く、歩行距離は伸ばせていない状態でした。

③ 移動回数と移動時間

入居者の1週間の行動範囲、移動内容、移動時間を調べたところ、日常生活行動が大半で、機能訓練歩行があまりみられませんでした。

④ 歩行訓練の理解度

入居者の歩行訓練の重要性の理解度をみると、約半数がその重要性について理解不足であるとみてとれました。

⑤ 歩行距離のヒストグラム

歩行可能者の実測歩行値は、歩行ケアプランの目標値を下回っていました。日常生活の必要性のある移動のみの歩行でした。

人	物	設備	方法	項目	詳細	結果
1	●		●	ケアプランとモニタリングの歩行状況	ケアプランの短期目標が計画どおり実施できていない	○
2	●		●	日常生活と機能訓練の移動回数と移動時間	日常生活の行動移動が大半、移動に要する時間も短い	○
3		●	●	歩行援助用具の種類	歩行援助用具の種類と台数が充足しているとはいえない	×
4			●	トイレ、浴室設備への昼間と夜間の移動割合	機能的に利用者それぞれにベストマッチしていない	○
5	●	●		歩行訓練前後の表情の変化	歩行訓練の内容が充実しているとはいえず、楽しみながら行っていない	×
6	●		●	ユニットごとの歩行距離と達成度	歩行距離が短期目標の数値を下回っている	○

5. 目標設定

<p>★目標値 ケアプランとモニタリングの歩行状況の差をなくするため ★どれだけ ケアプランの計画通りに歩行訓練を行う 17名 0名 現状 目標値</p> <p>★いつまでに 開始 完了 平成25年7月1日～8月20日までに</p> <p>そのために 計画表の目標値を明確化する 個々の目標を設定する</p>	<p>★目標値 歩行訓練後の表情をよくするため ★どれだけ 歩行訓練後の平均点をすべて7点以上を目指す 4.2点 7点 現状 目標値</p> <p>★いつまでに 開始 完了 平成25年7月1日～8月20日までに</p> <p>そのために 歩行訓練の方法を検討する アセスメントを分析する</p>	<p>★目標値 ユニットごとの歩行距離を伸ばすため ★どれだけ 1日で6,000メートル/30名 1.4km 6km 現状 目標値</p> <p>★いつまでに 開始 完了 平成25年7月1日～8月20日までに</p> <p>そのために 1人1日平均200メートルを目標とする 個々の運動量を増やす</p>
--	---	--

ポイント ④ 目標設定

現状把握で絞り込んだ特性から目標を設定し、目標値の根拠も具体的に示されており、参考になります。

6. 要因解析・検証

「明るく、楽しく最後まであきらめない！」を合言葉に、特性ごとに要因の取りまとめ、担当者を決めて全員でブレインライティング法を行い、要因解析を行いました。

ポイント ⑤ 要因解析

特性要因図からさらに検証を実施して、真の要因を追及しており参考になります。

上位目標:介護力向上、下肢筋力アップを目指す

制約事項:8月20日までに完結を目指す

○:良い ×:悪い

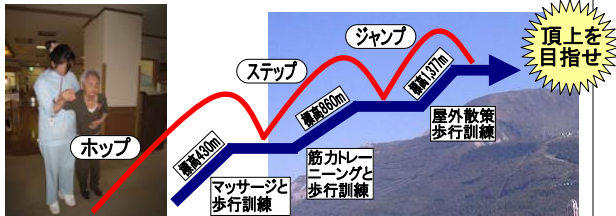
	(1次手段)	(2次手段)	(3次手段)
歩行距離を伸ばして下肢筋力をアップするには	楽しめる歩行訓練で歩行距離が伸び、下肢筋力はアップする	生活範囲外の歩行を増やす	24時間軸を活用して日中の生活全般を見直す
	職員同士で常時、情報共有すれば助方法が統一できる	歩行器、介護機器の種類を増やす	機能訓練士と相談しながら介護機器を選定する
		機能訓練士を含めた勉強会を行う	入居者に合わせた介護機器を選定する
身体を動かす機会を増やすには	郊外の複合施設の利点を活かし施設内外で社会資源を活用できる	地域で行われているイベント、企画に参加する	地域の情報を集め参加可能なイベントを選ぶ
	日常生活動作と機能訓練を融合すれば付加価値の高い効果がうまれる	ふれあいホールを運動する場所として自由に使用して頂く	他フロアで行われるレクリエーションなどに参加するため歩行移動して頂く
	歩行器や機能訓練の器具を選択することができれば有効活用できる	入居者に歩行器具を選定してもらう	入居者に身体機能にあった歩行器具を使用していただく

	方策案	実効性	効果	期間	総合評価
歩行距離を伸ばして下肢筋力をアップするには	1-1 季節が感じられる自然のある場所に外出して頂く企画を立てる	○	○	○	採
	1-2 施設周辺の歩行ルートを考えて地図を作成する	○	○	○	採
	1-3 目標達成できるように段階的な目標を作る	○	○	○	採
	1-4 身体機能に合わせた機器を使用し24時間軸に構成する	○	○	○	採
	1-5 歩行器、介護機器用品を用途別に配布する	○	○	○	採
	1-6 毎週木曜日に勉強会を行う	○	○	○	採
	1-7 歩行訓練を行えたらチェックリストにチェックする	○	○	○	採
	1-8 個別機能訓練マニュアルを作成する	○	○	○	採
	1-9 余暇活動にリハビリなどの参加を企画する	○	○	○	採
身体を動かす機会を増やすには	2-1 身体機能に合わせてイベント参加を分ける	○	○	○	採
	2-2 いつどこでイベントがあるかお知らせを掲示する	○	○	○	採
	2-3 参加意欲のもてるような企画をもとめているのか意見をまとめる	○	○	○	採
	2-4 ふれあいホールに写真展や絵画展など足を運んで頂けるようなイベントを企画する	○	○	○	採
	2-5 疑似体験する歩行で達成感をもって頂く	○	○	○	採
	2-6 歩行器具を機器別に種類を多く用意する	○	○	○	採
	2-7 介護機器メーカーから新商品のデモをレンタルする	○	○	○	採

7. 対策の立案・実施

方策展開型系統図の方策案から以下の対策を実施したことにより、歩行訓練の重要性が理解され歩行する機会が増えてきました。

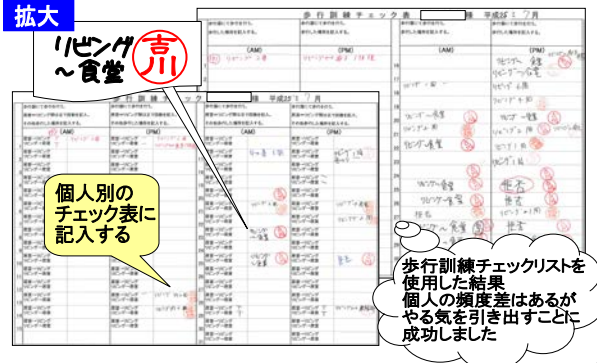
(3次手段) 24時間軸を活用して日中の生活全般を見直す



【工夫した点】
介護力向上で学んだ科学的介護の実践応用と職員が人力で持ち上げない、てこの原理の活用、負担の少ないやさしい介護を目指しました



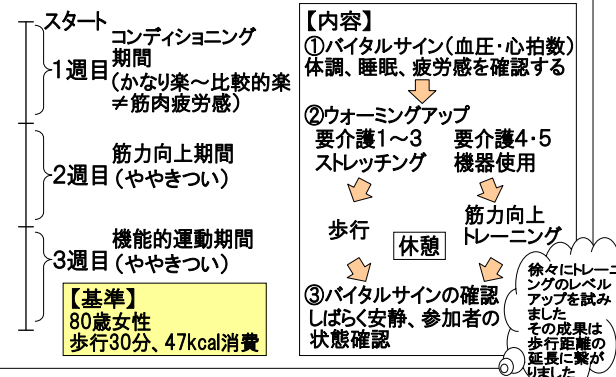
(3次手段) 身体機能の知識を深め、効果的な訓練を実施する



(3次手段) 入居者に身体機能にあった歩行器具を使用していただく



(3次手段) 24時間軸を見直し歩行、筋力アップに努める



ポイント ⑥ 対策の立案と実施

対策の立案・実施にあたっては、系統マトリックス図を作成し、細部にわたって抜け落ちなく、豊富なアイデアを出しあっており、大変参考になります。

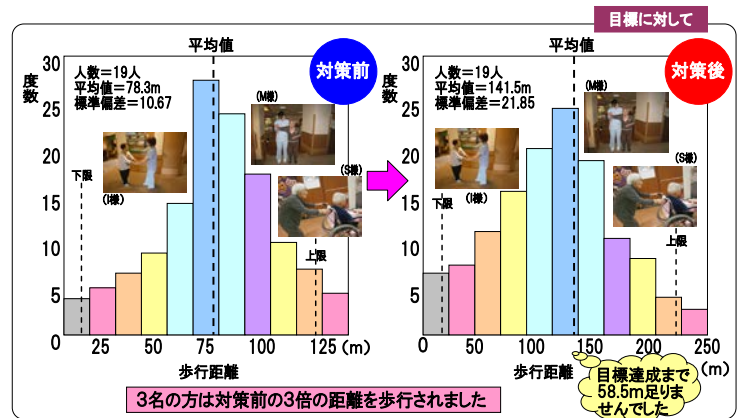
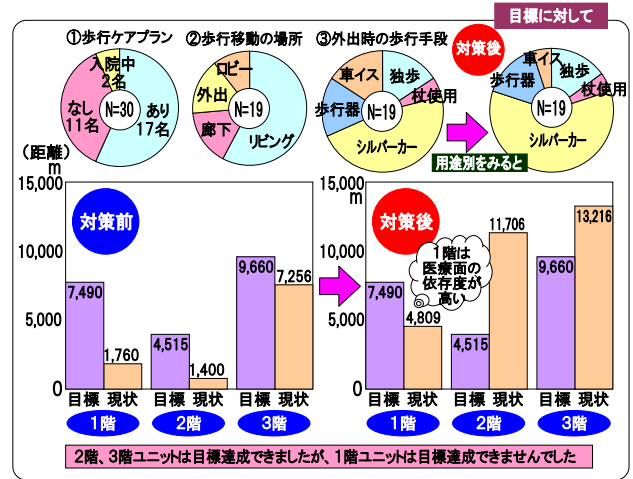
8. 効果の確認

方策展開型系統図の方策案から以下の対策を実施したことにより、伊吹山登山の何合目を目指しているか明確になりました。

また、歩行訓練に対する重要性、緊急性、必要性も理解され設備、訓練機器、訓練方法がケアプランのモニタリングにも顕著にみられるようになりました。

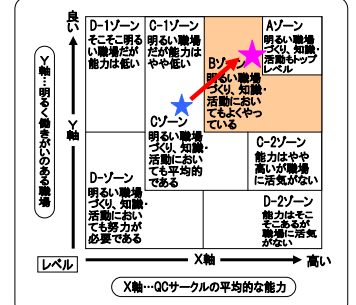
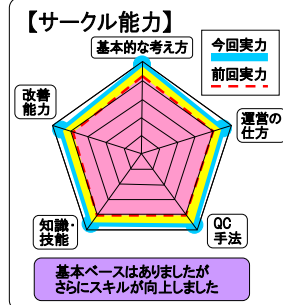
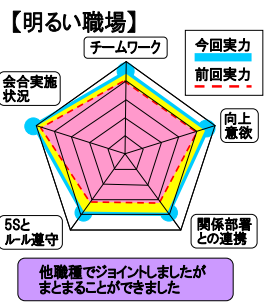
目標に対して

対策前	歩行訓練前後の表情の変化		状況説明	表情	平均点
	訓練前	訓練後			
居室～トイレ			居室からトイレへの移動は距離が短くよい表情でした。		6.4
リビング～トイレ			移動距離が少し長くなり普通の表情でした。		5.3
居室～リビング			近い方と離れた方で差があり疲労感がみられました。		5.1
リビング～風呂			移動距離が長く長距離歩行で疲れがみられました。		4.2
対策後	訓練前	訓練後	状況説明	表情	平均点
居室～トイレ			同上		7.4
リビング～トイレ			トイレまで歩かれる入居者が増えました		7.1
居室～リビング			距離の差はありますが歩行訓練の効果が明らかになりました		7.2
リビング～風呂			歩行器、シルバーカーの使用に慣れて、風呂まで行かれる入居者が増えました		7.0



活動の成果

- QC手法習得レベルがUPし、人材育成が図れた。
- 関係部署との連携が図れた。



ポイント ⑦ 効果の確認・波及効果

有形効果、無形効果について改善前・改善後を比較して、分かりやすくまとめられていますが、今回多くの波及効果（利用者や他に与えた影響）もあったのではないのでしょうか。これらを明確にすることで、更に達成感、満足感につながると思います。

9. 歯止め

対策したことが継続できるように5W1Hで定着を図りました。また、得られた改善結果を水平展開し、改善効果の拡大を図りました。

ポイント ⑧ 歯止め

対策の立案、実施にはチーム全員が多くの労力を費やしたと思います。その成果を元に戻さないために、これだけしっかりと歯止めは大変有効です。

歯止めの要素

標準化と管理の定着化							歯止めチェック欄		
	what? 何を	when? いつ	where? どこで	who? 誰が	why? なぜ	how? どのように	チェック者	確認	問題点
標準化	歩行訓練の重要性をお伝えする	毎月 ユニット会議時 9月19日	ユニット 各フロア	加藤	歩行がどれだけ身体に好影響があるかわからないため	各種メディアなど活用する	脇本	OK	なし
	機能訓練の意欲向上	毎月 ユニット会議時 9月20日	ユニット 各フロア	小嶋	入居者のやる気を引き出すため	他職種連携で入居者へアプローチをする	高橋	OK	なし
	訓練時間の充実	9月22日	機能訓練室	徳永	日常生活のリズムに組み込むため	24時間シート日課表の中で生活の一部として有効活用する	加藤	OK	なし
管理の定着	訓練方法の定着	9月20日	ユニット 各フロア	全員	周知徹底のため	機能訓練指導員の勉強会の充実	小嶋	OK	なし
	訓練プログラム	9月25日	機能訓練室	脇本	ケアプランが未達成のため	モニタリングのレビュー、再評価をする	徳永	OK	なし
	水平展開	毎月	ユニット 各フロア	全員	効果拡充のため	他職種への水平展開をする	佐藤	OK	なし
維持管理	下肢筋力の維持向上	9月19日	機能訓練室	佐藤	下肢筋力の低下のため	歩行援助用具の効果的活用する	高橋	OK	なし

サークルの標準化							歯止めチェック欄		
	what? 何を	when? いつ	where? どこで	who? 誰が	why? なぜ	how? どのように	チェック者	確認	問題点
管理の定着	QC回覧板	困った時	日常的に	全員	問題を早急に解決するために	疑問・意見などを記入し情報を共有	脇本	OK	なし

横展開
(水平展開)

10. 反省と今後の課題

問題解決の手順ステップごとに良かった点、反省点をメンバーで話し合い表のようにまとめました。今後はPDCAサイクルをさらにより効果的にスキルアップしていきます。

ポイント ⑨ 反省と今後の課題

運営（QCサークル）と問題解決の進め方の2つの方向からPDCAに沿って、反省を行うなど今後の活動に役立つ効果的な反省がなされています。福祉QCを学ばれる方々にとって大変参考となります。

ステップ	良かった点	反省点
P テーマ選定		
P 活動計画	会合は全員参加できた。施設長にも有効的助言をもらえたメンバー以外の参加も要請して実現できた	チームリーダー・サポートメンバーでユニット各フロアで力量の差がみられた
	現状の把握・目標の設定	
D 要因解析		QCツール活用に時間がかかった
D 対策案の検討・実施	多方面からも客観的アプローチができた	対策案の抽出が難しかった
C 効果確認	サポートメンバーの活動が顕著だった	
A 標準化・管理の定着		対策が終わって安心し、その後の活動が遅れがちであった

ステップ	良かった点	反省点	今後の進め方
テーマ選定	介護力向上を取り入れたこと	所々職員目線であった	上位方針に沿って挑戦する
P 活動計画	ステップスライドを採用できた		ステップリーダーを活用する
現状の把握・目標の設定	数値目標が明確にできた	データドリマトリックスに戸惑った	スキルアップする目標設定をする
D 要因解析	真の要因を探る方策展開系統図ができた	3次、4次要因に時間がかかった	より効果的な要因解析をする
D 対策案の検討・実施	16項目の対策案が抽出できた	歩行キーワードに偏った	多面的な対策案を検討する
C 効果確認	各項目で効果の検証レビューができた		再評価レビューで精密性や達成度を確認する
A 標準化・管理の定着			継続的な改善やその成長を目指す

まとめ

この活動事例は、利用者思考に基づいてテーマを選定しており、多くの関係者（他職種）の方々と思いを一つに連携、協力しながら、活動され大きな成果を挙げられたすばらしい事例です。

特に参考になる点としては、

- ① 必然性のある良いテーマを選定している。
 - ② サークル運営に数々の工夫がされている。
 - ③ 事実、三現主義、データ化などQC的ものの見方・考え方を実践している。
 - ④ 問題解決の進め方については、基本を良く理解され効果的にPDCAを回している。
 - ⑤ 活動を通して達成感、満足感を味わっている。
- 等が挙げられます。
実力のあるサークルですので、今後のさらなるご活躍を祈念いたします